

# 清流

題字：芳野 充

令和 2 年 8 月 30 日  
第 44 号

発行所 加来不動産(株)  
発行者 加来 寛  
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに  
静かに  
清流のように

## 素直さが人を成長させる

前号で、品性を高めるには「徳」を身につけることが重要で、品性が高まっているかを量るモノサシとして、「二十の徳目」を紹介させていただきました。自身の品性を高めるためにも今号から、一項目ずつ掘り下げてみたいと思います。

「二十の徳目」の一番目は、「素直」です。素心学塾塾長の池田繁美先生は、「素直」とは、人の話や身のまわりに起こるできごとをあるがままに受け入れる、クセのない心、とおっしゃいます。

以前のわたしは以上頑固で、人の話やアドバイスに対して、「はい。わかりました」と素直に聞き入れることができず、心のどこかで「わたしが正しい」「それはやりたくない」「そのやり方は気に入らない」、などと思っていました。いま思えばスポーツでも仕事でも、上司や結果を出している人が「こうしたほうが良いよ」とのアドバイスや指示に、「はい。分かりました」と受け入れ行動する人はかわいがられ、成長スピードも早い、と分かります。

また、身のまわりに起こる不都合な問題があるがままに受け入れ、それを「ありがたいございます」と思えるようになってきたのは、ここ最近のことです。

以前は、ことあるごとに他人や環境のせいにしていました。また、自分に非があったとしても、相手の悪いところを引き合いにだし、自分を正当化し、謝ることをしませんでした。その結果、当時（十数年前）の社内の人間関係は悪化し、遅刻や欠勤が蔓延、家庭内もギスギスし、やることなすこと裏目になっていました。

たまたま池田繁美先生に相談したところ、自身にとって不都合なことが起こるのは、じつはその人の未熟な部分に気づかせてくれる、有り難いこと。また、自分にも非があるのであれば、相手を責めるのではなく、キチンと謝ることが大切で、とやさしく諭してくれました。頑固なわたしはすぐに「はい。わかりました」と受け入れることはできませんでしたが、時間をかけ徐々にその言葉を受け入れ、自分の非を詫びることで、また自分の未熟さと向き合い認め、それを変えていく行動をとることを続けてきました。結果、当時のスタッフが今では会社を支え盛り上げてくれる存在になり、家族とも仲よくすごせています。

いま実感することは、自分にとつて腹の立つこと、辛いことを人や環境のせいにするのではなく、また執着するのではなく、スツと手ばなし受け入れる素直さが、人を成長させてくれるということ。とは言え今でもさまざまなできごとに、頭を悩ませ右往左往しているわたしですが、これからも自分を磨いていきたいと思えます。

加来 寛

